

地上デジタル放送は何をもたらしたか

<1> はじめに

従来からのアナログ放送は平成 23 年 7 月で終了して、地上デジタル放送に移行することが報じられて、日本中が「地デジ」に揺れ動いた。難視聴問題の解決、新しい技術の採用による高速高密度な情報の受信送信など数々のキャッチフレーズや期待が錯綜した。そして大地震や洪水などの天災が続発して、移行に支障が出た部分もあったようだが、移行期間が終了した。

我が国で一般家庭へのテレビの設置が進んだのは、昭和 39 年の東京オリンピックが引き金になり昭和 40 年代の前半の時期だったと思う。あの日からもう 50 年近い年月が流れたことになる。

地上デジタル放送移行は、テレビ等関連機器の買い替えなどを通じて景気の底を上げてくれたかもしれないが、一方ではまだ充分使用可能な電気製品が数多く廃棄されることになった。未だに路傍にブラウン管のテレビが廃棄されている状態が続いている。

<2> これまでの我が家のテレビ

東京の高層ビル化が進むにつれて千葉方面では電波障害が進み、ゴースト画面が増える傾向にあった。さらに東京電力の送電鉄塔が立つことになり、我が団地では難視聴対策として東京電力による一括受信・有線配信が行われるようになった。

有線配信により各世帯には VHF・UHF の受信アンテナは不要になり、その代わりに電柱から同軸ケーブルが入って来た。このケーブルが張られた時には我が家には 1 階 2 階にそれぞれ一台ずつテレビがあったが、2 階のテレビを破棄した後は TV チューナー付きパソコンがこれを使った。

さらに NHK の衛星放送を見るために自分で取りつけたパラボラアンテナが唯一のアンテナとして君臨していた。この同軸ケーブルは、2F のベランダから 1F のテレビまで約 10m の長さになった。

パソコンの通信回線をダイヤル回線からマルチメディア対応に切り替えるにあたり、「光回線を使って電話とテレビを合わせて一本に」とした人もいたようだが、私は ADSL 回線を選択した。

<3> 地上デジタル放送への移行ビジネス

「地デジ」という何とも音の響きが上品でない略語が飛び交い、移行の動きが始まった。地上波デジタル放送への移行に伴って、前述の「東京電力からの有線配信による難視聴対策」は役割を終えるとして、各世帯に通達文が配布された。地上波デジタルへの移行は各世帯で個別に行うようにという指示が出され、どの家でも準備が始まった。

この機に乗じて顧客を獲得しようとする通信業者やプロバイダーからの DM や電話攻撃が始まった。

やがて団地の中には新しいアンテナが一本・二本・三本と増え始め、さらに光回線を引いて電話・パソコンとテレビを合わせて一本にしたという家も増えてきた。

ある日、JCOM という通信会社（プロバイダー）から DM が届いた。冒頭に述べた東京電力が難視聴対策として設置した有線配信のインフラをそっくり買収することが決まったので、契約して欲しいという。

この話が地上デジタル放送移行の初期にわかっていたればかなりの顧客が獲得できた可能性があるが、もうかなりの家では対応が進んでいた。「電話・インターネット・テレビが一本化」ということと「テレビのチャンネルが増えて沢山見られますよ」ということがポイントになり、かなりこの流れに乗った客もいた。

しかし、我が家のように「テレビのチャンネルなんかそんなに沢山いらぬ」と思っている家や「家はインターネットなんか関係ないから」という人もおり、結果的にはさほどのユーザーは確保できなかったようだ。

<4> 我が家の地上デジタル放送対応

様々な移行をした方の話を聞いたり、インターネット等でそれぞれの手段の持つ長短などを確認している内に期限が迫ってきたので、我が家としての結論を出すことにした。

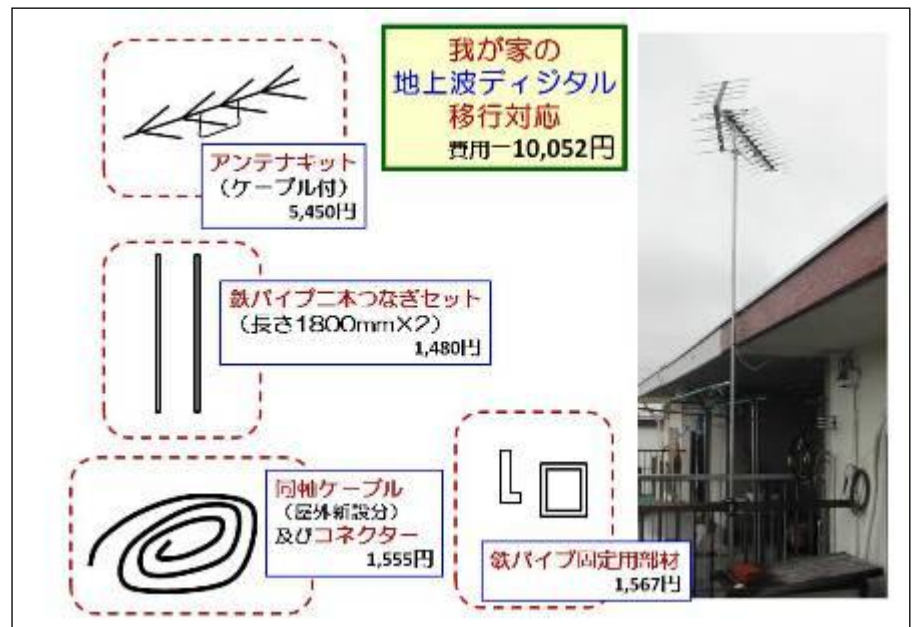
- ① 「テレビとインターネットと電話の一本化」の必要はない。
- ② インターネットは、将来的には光回線への移行が望ましいが、今のところ ADSL で特に問題はない。

- ③ 地上波デジタルテレビ用のアンテナは、部材を買ってきて自分で2Fベランダに建てられそうである。
 ④ 既設の衛星放送用のパラボラアンテナは、デジタル放送対応の物なので、そのまま使える。

以上のような観点より、「地上波デジタルテレビアンテナを自分で取り付ける」ことを結論とした。アンテナを屋根の上に付けるために業者に頼まざるを得ず、そのためかかる費用は3万円とも5万円とも聞こえてきた。

平成22年11月、我が家のセルフビルド工事は総費用10,052円で、無事終了することができた。

この値段よりも、まだ使えるにも関わらず買い替えることになったテレビとビデオレコーダー・プレイヤーの値段の方が遥かに高額なのは言うまでもない。しかもテレビの大きさは一回りも二回りも大きくなってしまった。「日本経済の活性化に貢献するのだ」という大義名分を盾に我が家の「地上波デジタル放送対応」は終了した。



<5> そしてどうなった？

さて、問題はここからなのだ。地上波デジタル放送移行は何をもたらしただろうか。

多くの人にコメントを求めると、「画像がきれいになった」という声をよく耳にする。これは、デジタル放送化とテレビ受像機の買い替えとを同時に行っているのも、正確にはどちらの影響力が強いのかは解らない。技術的には双方の相乗効果と見るのが正しいと思う。

テレビの前に座っている一視聴者の観点での感想を友人・知人に求めると、批判的な物が多いように感じる。番組と言う形で視聴者の体に入ってくるので、「番組へのコメント」が感想の主たる所になるのはやむを得ないところだろう。

地上波デジタル放送について気が付いたことを書いて見る。

NHKの放送を見ると、必要以上に登場人物を多く並べたワイドショー番組が多くなり、画面の中で出演者同士が勝手にふざけている番組構成が多くなったように感じる。十年ほど前の民放各局の番組の後を追いかけているように感じられる。一方ではEテレと呼ばれる旧のNHK教育テレビは番組が充実した感じがする。子供向け番組・若者世代向け番組・高齢者／障害者向け番組・芸術鑑賞・生涯学習など様々な企画の意図が感じられる。

民放各社の放送は相変わらず、「出演者同士がふざけ合っているワイドショー番組」と公開録音等で会場に居る視聴者に、必要以上に「へーッ」と驚きの声を上げさせる「やらせのような番組」が目立つ。時々1時間物や2時間物で流される「刑事物ドラマ」は、中身が薄く低質・低俗な物が目立つ。

さらに、地方のローカルテレビ局（我が家では千葉テレビ）は古い番組を買ってきたり、無理して時間割を埋めるような番組が多く、ひどいものだ。

BSデジタル放送については、これまでのNHKだけの時代とは打って変わって民放各社が取り組み始めたため、チャンネル数は飛躍的に増加した。民放各社のBSデジタル放送は大半が「古いドラマの再放送」と、健康食品などを中心とした「通信販売」で、間に流れるコマーシャルの大半も通信販売であることを合わせると、通販テレビを見ているような感じになった。また、さほどの出来とも思えないような韓国ドラマもやたらに多くて、これまた目障りな存在になっている。

NHK・民放各社のチャンネル以外に有料の放送局が多数登場したが、我が家ではどのチャンネルとも契約してないので見たことはない。何十チャンネルもの中を探しながら見るほどにテレビを見る時間はない。

私にとってのテレビはニュース・天気予報・大相撲鑑賞がメインで、次は映画（これは見ておきたいと思っ

たものだけ) とテレビタレントが登場しない自然や旅の番組ぐらいだろうか。
深夜0時を過ぎてもテレビの音が聞こえてくる家があるが、皆何を見ているんだろう？

<6> おわりに

デジタル放送への移行と衛星放送により難視聴エリアへの対応と災害時の対応についてはかなり充実したと考えられる。

しかしその反面、放送局が使命感を持って作った番組が減ってしまい、「心を込めて作った放送番組」は探さなければ見つけられなくなった。「過剰な情報の中から不要な情報と有用な情報を分別」する能力がないと生きていけない。これはインターネットについても言えることである。

50年前に評論家の大宅壮一氏が警鐘を鳴らしたように、一億人が再び白痴化の危険にさらされていることは間違いないような気がする。

以上